

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長)

住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

関根憲一 090-4889-3726(富岡)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

再生エネルギー買い取り、何故中断

公害をまき散らす原発、事故が起きれば制御(コントロール)できない原発、命と健康をおびやかす原発、事故が起きればこの世で責任の負えることの出来ない原発、この事は福島第一原発事故が教えてくれました。日本の電気料金は世界で一番高いと聞く、それに私たちの血のにじむような税金が注ぎ込まれてきた。電力会社は不景気であろうがなかろうが黒字なるように仕組まれている。未曾有の原発事故を起こしても責任の一片もないのはそこにある。

原発事故により再生エネルギーがクローズア

ップされた。国民のほとんどの方がそれを望んだ。しかし、ここにきて電力会社は再生エネルギー買い取り手続きを中断してきた。そこで国は買い取り価格の引き下げを見当している。

太陽光発電が増えすぎて送電が不安定になるからという理由のようだ。それならそれで対処できるような対策も講じているのか、電力会社優遇と原発再稼働に支障がでるからではないのか、国民の財産と命と健康を守る事が最重点課題ではないか、そのことが福島原発事故の反省だろう。

原発事故後4回目の冬

— 双葉町仮設の皆さんの苦しみ —

廃墟と化した街と、中間貯蔵施設

私は去る11月14日に双葉町の視察にいきました。双葉町の街中では、線量は0.7の所もあれば6.0の所もあります。西に向かって5km先は10.0と上がって来ます。双葉町は完全に廃墟化しています。

国も自治体も「除染をしたから放射線量が下がりました」という。これまで除染をした

ところで、線量が完全に元に戻ったと言う例は聞いたことがありません。除染をしなくても線量が下がってきた事は聞きます。それはきっとセシウム134の半減期が2年ですからその部分だと思えます。

誰がこの様な街にしたんだと怒りで体が震えました。

中間貯蔵施設ができれば30年後に県外(最終処分場)へと移すと言います。その場しのぎ

の言い方ではないでしょうか。事故から間もなく4年になりますが廃虚化がどんどん進んでいます。30年後はどうなるのか想像も出来ないでしょう。今年産まれた子供は30歳、70歳の方は100歳です。現国会議員の方々は何人生きていられますか、無責任な事は言わないで下さい。放射能という魔物は一度汚したら10年や20年で消えるものでないのはお分かりのほうです。

「避難者か」といじめられ

帰りに双葉町の仮設に寄ってきました。先人達が何代もかかって築き上げてきた財産を全て奪われ逃げてきた皆さんの話を伺いました。未来永劫続く事が当たり前であった故郷でのくらしが、原発事故のために避難を余儀なくされた、ほとんど高齢者の方々ばかりでした。双葉は帰りたくても帰れません。しかし皆さんはアンケートで帰還しますかと問われれば「帰る」と書くそうです。

仮設住宅では別れの時が近づいています。復興住宅、ふる里への帰還をあきらめ、遠くに移転する方たちにとって、悲しく寂しい別れです。

高齢になってからの新天地での生活はつらい。これまでも転々とした時に「避難者か」といじめられ、また転居した人もいと聞きます。また最近いじめの例を多く聞くようになりました。「お前ら補償金をもらって遊んでいるんだろう」などと言われたと言います。

黙り込む高齢者

若い方は一時帰宅にも行かなくなりました。ふる里を思い出すと涙が出る。仮設から復興住宅へ入る人、中古住宅を買い求めて行く人がふえていくなかで、家族ばかりではありません。皆なまたばらばらになってしまいます。新しい地

で誰一人知らない所で生活が始まる。若いならどんなことでも出来るがもうなにも出来ない。不安でならない。仮設に残っている皆さんは、半病人になり涙を堪えているようでした。

高齢者の方々は、この辛さを何処にぶつけようにもぶつけるところなく黙り込んでしまいます。

新聞に102歳の方が自殺し家族が訴訟をおこしたと報道されました。102歳まで生きてきて何で自殺するのか、普通は考えられない事です。どんな気持ちだったのだろうと思うと悲しく寂しい思いです。避難したくなかったのか、家族に迷惑かけたくなかったのか、どちらにしても原発事故が原因のようです。

原発事故は子供、高齢者を問わず苦しめ全てを奪ってしまいました。

國分富夫



↑ 無人の双葉駅

↓ 防護服で町内を視察する筆者



山形県川西町老人クラブからの便り

11月1日、山形県川西町の老人クラブの研修旅行に、「相双の会」がまねかれました。約30人ほどの方の前で、訴えさせてもらいました。老人クラブの鈴木宏さんからの便りです。

(前略)

福島県の方々は、自分の住む故里、そしてお住まいにも今もって戻ることができず、職も失い、家族もバラバラとなる人災、理不尽さを私たちが強い憤りをもってお聞きしました。多くの老人会員は被災された方のお話を聞く機会はありません。福島県は隣の県であり、歴史的にも人の交流があり、言葉なども置賜弁と似ており親近感を持つのは私だけではないと思います。

(中略) フクシマの原発事故が何一つ解決していないのに、原発推進者と安倍政権は再稼働させ、原発を外国にまで輸出し、金もうけするということですが、認めることは出来ません。私たち老人には何もできませんが、隣近所の老人ひとり一人と話合っ、志を同じくする仲間をふやしていくことだと思っています。先日の旅行でお話を聞いた老人会員が隣近所の参加できなかった老人たちにお茶飲みをしながら、伝えていると思います。

老人クラブに於いて、原発事故の話聞く機会はほとんどなかったのですが、この度の国分さんのお話しは非常に有意義なものでした。やはり老人になっても「原発」や「戦争」や「憲法」等の難しいことについても関心をもって勉強し、子や孫や曾孫が安心して平和にくらせる世の中を継承させたいものです。

今後ともよろしくおねがいします。

ご健康に留意され一層のご活躍を祈念申し上げます。(後略)

東京南部視察・交流団感想

(10月25～26日)

東京の南部から、2回目の原発被災地視察と交流ツアーが、バス1台で大熊、双葉、南相馬などを訪れました。感想文を紹介します(一部割愛させていただきます)。

初めての参加で知識もなく、新聞、ニュース等の聞きかじりで不安がありましたが、皆様のおかげで仲間に入れて頂いた気が致します。しかし、現地の方々の先の見えない苦しみが自分

には想像もつかない。はかり知れない現実であることにショックを受けました。まだ、今回は驚きばかりで理解できない部分が多くあると思います。これを機に微力でも協力出来る部分で参加させていただければ幸いです。

高田泰子

今回のツアーではじめて被災地の人々と顔を会わせる機会を持つことが出来ました。

震災後3年以上時間が経ち、離れている人々にとともに忘れられそうな時を経ても今なお何にも手だてさえつかめずに苦しい思いを強いられていることに、怒りの気持ちでいっぱいです。再稼働なんてとんでもないことですし、福島の実状を何にも分かっていないことです。

石川文子

今回のツアーで沢山の事を学びました。

私は高校生に福島原発事故の事を知り、考えてもらいたいと思い参加しました。

国道6号線を通り福島原発を横で見ながらふと線量計の数字が跳ね上がるに驚きました。車内で4μSv/hにもなりました。途中道路をふさぎ警備をしている労働者たち（一日中道路に立っている）の労働環境に憤りを感じました。20km圏内のふる里をすべて奪った原子力発電所の事故は許せません。このツアーで学んだ事を現場の学校で生徒たちにしっかりつたえたいと思います。

角田 仁（都立高教教諭）

国道6号線「帰還困難区域」の情景、セイタカアワダチソウの生い茂る田園に言葉を失います。原発事故三年七ヶ月の今に胸が痛みます。廃屋、廃墟、富岡駅、鈍い重たい衝撃がありました。仮設住宅での交流会について、はじめて避難されて方の普段の声を聞かせていただきました。「俺は自宅に戻って死にたいな」の言葉が耳に残ります。「白いカーテンを閉めてテレビを付けて横になって」という仮設住宅の暮らしが良く分かる気がします。

二日目國分さんの講演は分かりやすくまとめられており勉強になりました。二日間通じての

印象を一言で述べれば、希望の牧場に書かれていた「棄民をやメロ」ということでしょうか、東電が国の支援のもと国策としての原子力発電によって引き起こした事故であり、今、政権はアベノミクスのもと事故被災者の棄民をオリンピックに向け進めているのだと思います。

長谷川のりお（都バス運転手）

去年はたくさんの方々の様々の声を交流会でお伺いし「地元では話せないけれど皆さんに聞いてもらえることが何より」という被害者の声に目が開かれた思いでした。今年は仮設住宅での交流会「先のみえない復興への苛立ち、やるせなさ」等々を感じました。この様な住宅に何年住まわせるつもりなのか、私だったら「1年でも耐えられないだろうな」と思うと何と申し上げたらよいのか、できれば元町長さんのお話だけでなく、住民の方普通の奥様方の気持ちなどをもっと伺いたかったな一と思います。…「フクシマ」を忘れないためにも毎年行きませんか。

池上公子

原発事故避難者訴訟第7回公判

12月17日(水)

14時～

福島地裁いわき支部

■前段集会 12時30分～

会場 飯野八幡宮

「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。匿名でもけっこうです。

電話 090 (2364) 3613 メール (國分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp

